

AAS40-3F型自動空気抜き弁  
取 扱 説 明 書

フシマン株式会社

〒140-0011

東京都品川区東大井 2-13-8 ケイヒン東大井ビル 2F

TEL 03-5767-4200 (営業部代表)


FAX 03-5767-4181


H-4F1286a

## 1. 安全上のご注意

本製品をより正しく安全にご使用いただくために、ご使用になる前に必ずこの「安全上のご注意」及び本文を良くお読みのうえ、正しくご使用ください。ここに示した注意事項は、本製品の使用・取扱いを明確にし、使用に際しての人的危害や物的損害を未然に防止するためのものです。

本書の中で使用されている記号は以下のようになっています。

 <b>注意</b>	取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負う危険が想定される場合、又は、物的損傷・損壊の発生が想定される場合。
---	---

 <b>注意</b>	
<input type="checkbox"/>	製品はむやみに分解しないでください。 *むやみに分解しますと、製品の機能が果たされません。
<input type="checkbox"/>	製品を落下したり、衝撃を加えることは絶対に行なわないでください。 *製品の作動不良の原因となります。
<input type="checkbox"/>	製品に無理な荷重・曲げ・振動が伝わらないように配管してください。 *製品の作動不良や寿命が著しく短くなる恐れがあります。
<input type="checkbox"/>	点検により製品を分解する際は、必ず製品内の圧力がないことを確認してから行なってください。 *封入された水、又は、温水が飛び出し危険です。
<input type="checkbox"/>	分解・点検・組立後は、各部の締付けを確認し、通水時に水漏れのない事を確認してください。 *封入された水、又は、温水が飛び出し危険です。
<input type="checkbox"/>	温水を使用の際は、素手でむやみに製品に触れないでください。また、点検及び清掃の際は必ず製品が常温まで冷えた状態で行なってください。 *火傷をする恐れがあります。

## 2. 仕様

呼び径	: 20
最高使用温度	: 80 °C
最高使用圧力	: 1 MPa
最低使用圧力	: 制限なし
耐圧試験圧力	: 2 MPa

## 3. 構造

本製品の構造及び各部品名称を、以下に示します。

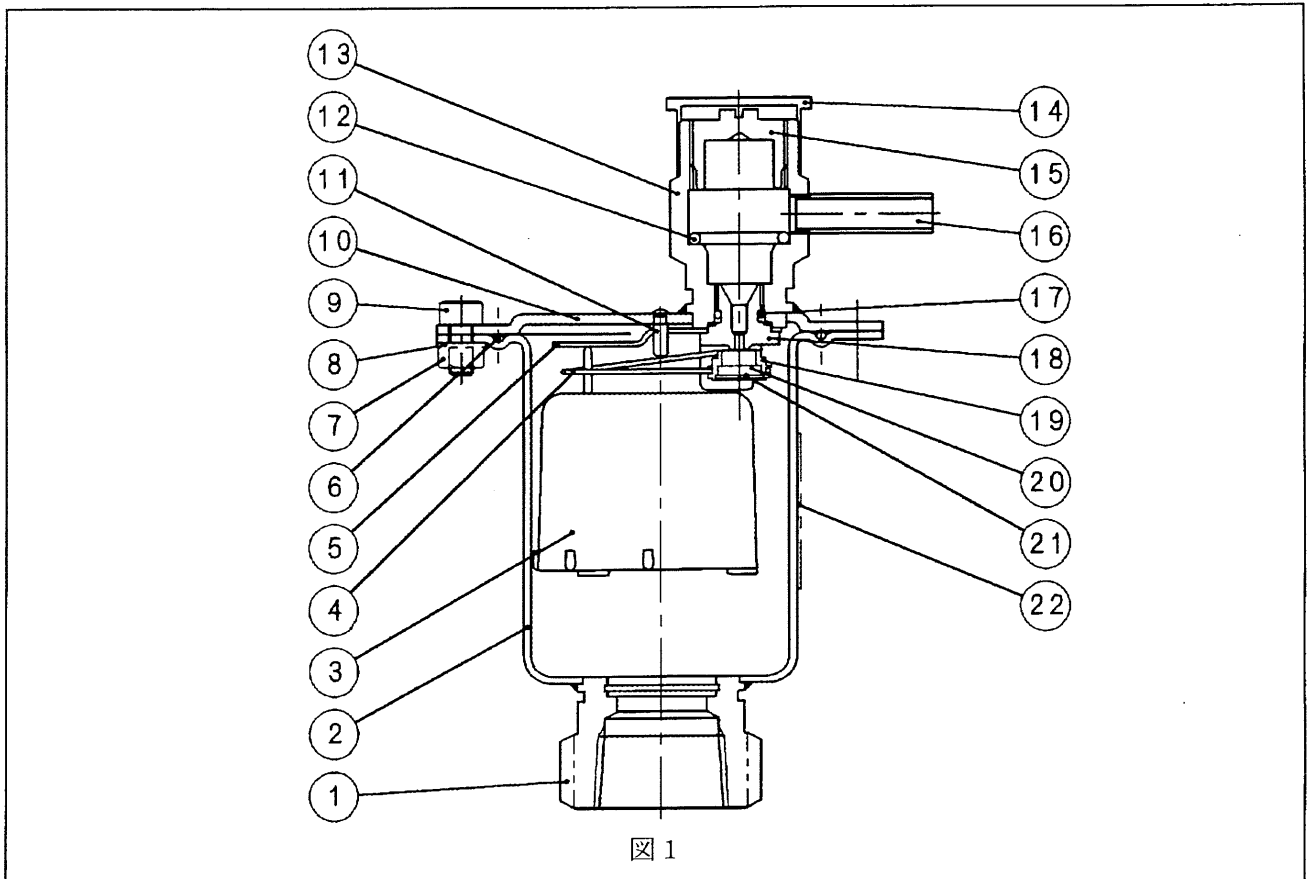


図1

### 部品名

1	入口金具	8	ばね座金	15	締切り栓	22	銘板
2	ケース	9	六角穴付ボルト	16	出口管		
3	フロート	10	ふた	17	Oリング		
4	レバー	11	位置ぎめピン	18	弁座		
5	レバー支え	12	Oリング	19	弁体押え		
6	Oリング	13	ソケット	20	弁体		
7	六角ナット	14	カバーキャップ	21	弁体受座金		

H-4F1286a

#### 4. 取付け要領

##### ⚠ 注意

製品に無理な荷重・曲げ・振動が伝わらないように配管してください。

##### ●取付け姿勢

配管・装置の最上部に直立に取り付けてください。配管の場合には、図2のように流れが横向きから下向きへ変わる部分に取り付けると、気泡の分離が特に容易になります。

##### ●止め弁の取り付け

保守・点検時のため、空気抜き弁の入口側に止め弁を取り付けてください。

##### ●排出管の接続

細かいゴミ、スケールなどが空気抜き弁の弁部に付着すると、水漏れを生ずることがあります。そのため、出口管(16)に内径8mmのビニル管を挿入し、他端を排水溝などに導いてください。

##### ●配管内の清掃

使用始めには、入口側の止め弁を閉じ、空気抜き弁内に異物が入らないようにして、配管内の鉄屑・ゴミなどを十分にブローしてください。

##### ⚠ 注意

通水時は、空気抜き弁の入口側の止め弁をゆっくり開けて、空気抜き弁及び配管に漏れのないことを確認してから、入口側の止め弁を全開してください。

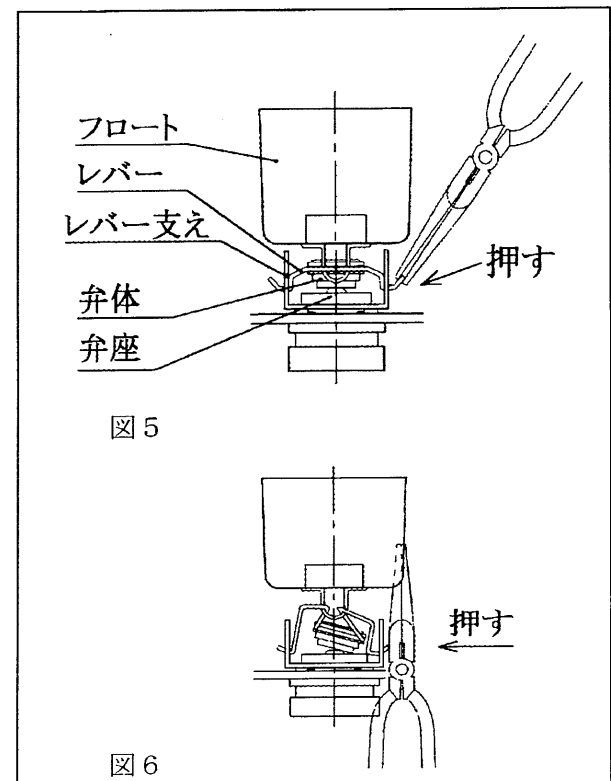
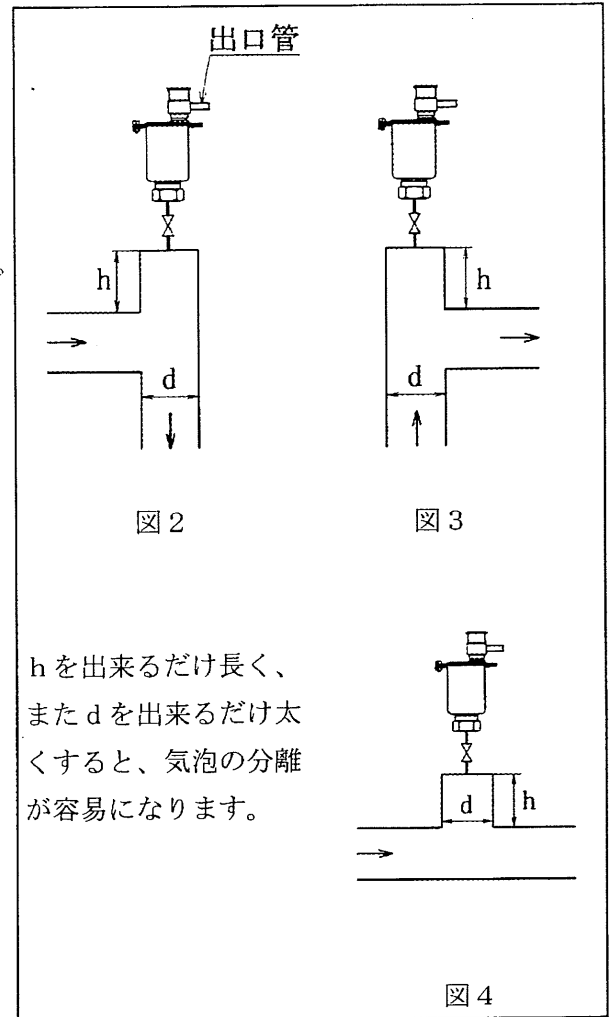
#### 5. 空気抜き弁部の清掃方法

##### ⚠ 注意

点検により製品を分解する際は、必ず製品内の圧力がないことを確認してから行なってください。

万一、常に水漏れが生じている場合は、弁体や弁座にゴミやスケールが付着したことが考えられます。この場合は弁を分解・清掃しなければなりません。分解方法は次によります。

- (1) 入口側の止め弁を閉じてください。
- (2) ふた(10)の六角穴付ボルト(9)を外して、ふたを外します。この時に六角ナット(7)・ばね座金(8)を落とさないように注意してください。
- (3) この段階で、弁体の表面や弁座の入口を点検できます。ゴミ・スケールなどを布切れで拭き取って清掃してください。弁体・弁座の当り面に傷があれば、以下の通りに更に分解してください。



- (4) ふたを片手で持ち、図5のようにレバー④の端をラジオペンチで挟み、レバー支えの小穴に沿って内側に押し込みます。次に図6のようにラジオペンチの平坦部でレバーの端を押すと、レバーがレバー支えから外れます。
- (5) 弁体をフロートの溝にくぐらせて、レバーとフロートを分離してください。
- (6) 弁座の当り面に傷がある場合は、細かい紙やすりなどで磨いて傷を取り除いてください。また、弁体の当り面に傷がある場合は、レバーごと新品と交換してください。
- (7) ケース上部のOリング⑥及びふた⑩のシール面などを点検し、汚れている場合は清掃してください。

## 6. 組立て方法

### ⚠ 注意

分解・点検・組立後は、各部の締付けを確認し、通水時に水漏れのない事を確認してください。

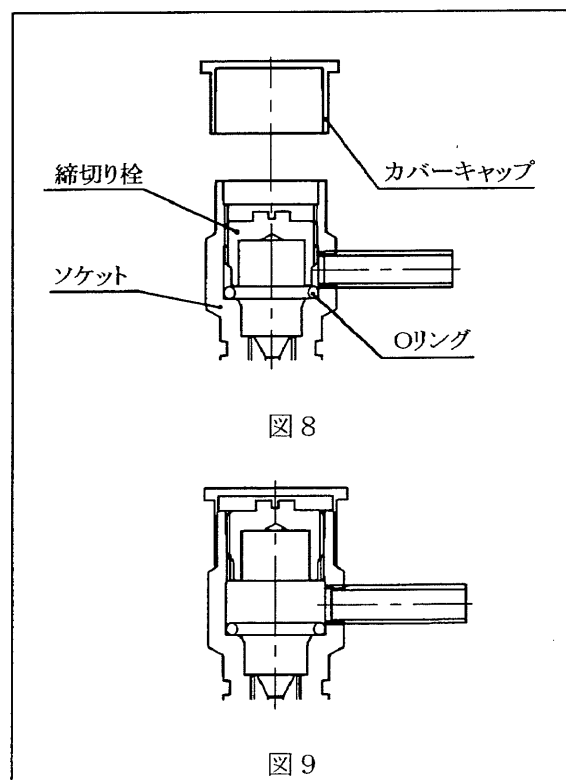
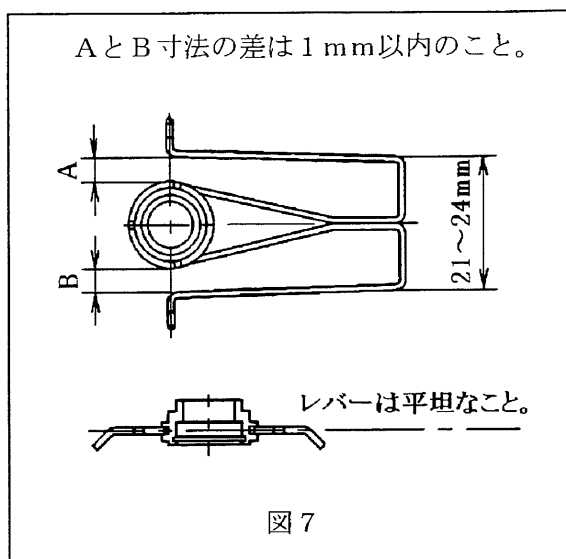
- (1) 5項と逆の順序で組み立ててください。レバーをレバー支えにはめ込むときは、無理な力を加えてレバーを変形させないように注意して、手ではめ込んでください。レバーは図7の寸法で出来ています。もし、ひどく変形した場合には指で修正してください。
- (2) ふた⑩をケース②に組み込むときに、フロート③がケース内部にスムーズにはいることを確認して組み込んでください。
- (3) 組立後、入口側の止め弁を徐々に開き、空気抜き弁に加圧してください。ふた締付部及び出口管から水漏れのないことを確認してから、元のように出口管⑬にビニル管を取り付けてください。

## 7. 締切り栓

空気抜き弁の入口側に止め弁を取り付けていない場合に水漏れがあったとき、この締切り栓により、修理までの間、一時的に水漏れを止めることができます。水漏れを止めるには、カバーキャップを外し、締切り栓をマイナスドライバーで時計の回転方向へ一杯にねじ込めば、図8のように出口部を締切ることが出来ます。

なお、締切り栓の正常な位置は、図9のように締切り栓の肩部とソケットの上端がほぼ一致したところですから、通常はこの位置にしてください。

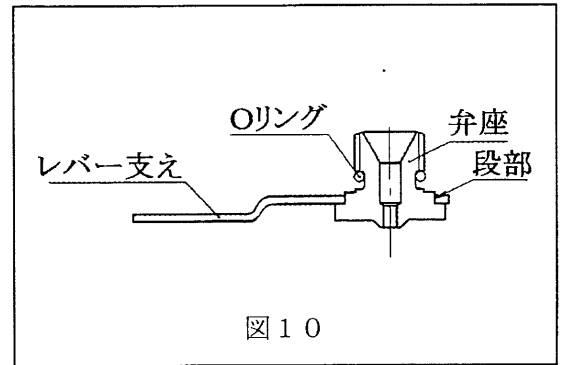
最後にカバーキャップをはめてください。カバーキャップは、万一水漏れがあったとき、ソケットの上部から水が漏れ出るのを防止します。



H-4F1286a

## 8. 弁座の分解・組立

弁座を分解する必要は殆どありませんが、分解する場合は14平のボックススパナを使用すると、簡単にねじ外せます。ソケット⑬にねじ込む場合は、図10のように弁座の段部がレバー支えの穴にはまるように組み付けて下さい。



12.111				AAS40-3F型自動空気抜き弁	
				取扱説明書	
EN	K7		DI	呼び径：20	
フシマン株式会社				H-4F1286a	